

長野県木曾青峰高等学校 令和5年度第2回学校評議員会 記録

日時 令和6年2月22日（金）午後2時15分から午後3時00分

場所 木曾青峰高等学校 会議室

出席者 学校評議員 同窓会長、同窓副会長、PTA会長、木曾青峰高校定時制教育振興会長、
信州木曾看護専門学校副学校長、（木曾福島）丘の上区長
学校職員 校長、全日制教頭、全日制教務主任、全日制教務室常駐者

1 開会

2 学校長挨拶

3 学校からの報告

4 学校評議員からの質問・意見・要望等

学校評議員会の前段に行われた、未来の学校（専門科1年生）の発表会についてのご意見・ご感想等をお聞きするために、係・学年・学科の報告は紙面にて行なった。第2回学校評議員会は、委員の皆様には発表会のご講評をいただいた。

（評議員）

生徒たちの説明を聞いていると、自分なりの考えを持っていて頼もしいと感じた。しかし、発表ポスターが掲示用パネルに比べて小さく、文字も鉛筆書きであったため見づらかった。人前で説明するには写真も文字も大きいほうが良い。

（評議員）

生徒たちが地域創生活動をするにあたっては、各町村に観光協会や観光ガイドの方がいるのでぜひ訪ねてほしい。観光協会等を訪ねることで、その町村の歴史や特産品など、その地域の観光の核がわかる。また、生徒たちがそういった組織と共同していけば、さらに良い取り組みができると思う。

（評議員）

生徒たちは緊張しながらも、プレゼンはとても上手であった。公の場でのプレゼンは社会に出て重要視される部分であると同時に、役に立つ経験なのでとても良い取り組みだと感じた。自分自身も、建設や飲食関係の仕事を手掛けている中で、本校とも様々な取り組みを共同でさせていただいている。発表を聞いて将来的に地元に残り、自分自身と同じ方向を向いている人がいればぜひ一緒に協力して地域を盛り上げていきたい。

（評議員）

タブレット端末を利用して発表している生徒のスライド（パワーポイント）の作り方が非常に良かった。また、1人1台端末の導入がされている中で、タブレット端末の利活用がされていることが知れてよかった。しかしながら、タブレットを活用して発表することを前提として考えると、台が低かったので見にくさを感じた。

テーマによっては、コーディネーターの方々に介入していただいているおかげか、深く調べられているものもあったが、特に単独で行っている研究はアイデアのみで終わってしまっているように感じ、

それぞれにムラがあった。本日の発表会で、多くの社会人の方からのアドバイスを受けて、生徒たちがどう感じて、そこをどう修正して2年生になって、テーマがどうなるのか、という部分が見たいと感じた。1年生にしてはとてもよかったと感じた。

(評議員)

複数人で行った研究は、内容が深堀できていて発表も堂々としていたが、単独で行った研究は少し内容が浅かったと感じた。発表の仕方についても、文字が小さかったり、筆圧が薄い部分があったので今後改善して欲しいと思った。

(評議員)

様々な視点で研究されていることを、それぞれ個性を出しながら発表している姿が良かった。注目したのは「木曽の里山の暮らし」の研究で、今後木曽という地域を支えていくために重要な部分に着目し、考えられていてとても興味深かった。1年生の発表ということで、なかなか難しい部分はあったと思うが、これらの研究が翌年深められたり、また違ったテーマでも生徒たちが課題と向き合っているものを発表できれば良いと思う。発表の仕方については、ポスターの制作も含めて伝わりやすくできるとよいと感じた。

(評議員)

発表を見るために、多くのお客様が見えられたので駐車場の確保や誘導はあってもよかった。また、各発表のブースに差があり、目に入りやすいものとそうでないものがあったように感じたので、一つ改善点としてあげられる。

5 その他

6 閉会